

明治大学の教育

PROFILE



浜本 牧子
Makiko Hamamoto

農学部教授

レインボーサポートセンター長・副学長(学務担当)・学生部長

専門：応用微生物学、微生物分子系統分類学

特殊法人(現・国立研究開発法人)理化学研究所専任研究員を経て、明治大学農学部助教授。

2011年より現職

農学博士(東京大学)

主な著書・論文

『Q & Aで学ぶ やさしい微生物学』(共著・講談社・2007年初版、2018年第4刷)

Identification of novel secreted fatty acids that regulate nitrogen catabolite repression in fission yeast. Scientific Reports 6, Article number: 20856, 2016. (共著) など

『菌の絵本 こうば』(監修・農山漁村文化協会・2019年第1刷、2021年第2刷)

所属学会

日本農芸化学会、日本生物工学会、日本分子生物学会

レインボーサポートセンターのシンボルマーク



センター開設1周年を機に、少数派も多数派もあるのが当たり前のキャンパスの実現に向け、すべての構成員が同心協力して取り組むために、多様性と包摂性をイメージしたマークを作成しました。

デザインコンセプト

マークの構成要素は、「多様であることは自然なこと」をイメージした「虹と生きものたち」となっており、明治大学の「M」を形成しています。

「明治大学レインボーサポートセンター」(以下、「センター」)は、本学の学生に対する多様な性に配慮した諸施策を推進することにより、性のあり方にかかわらず、すべての学生が適正に教育研究その他の活動を行うことのできる環境の整備ならびにあらゆる多様性を受容・尊重できる価値観を有する人材の育成に資することを目的として、2020年2月に、教学組織のひとつとして設置されました。センターは、この目的を達成するために、多様な性に関する諸活動の企画・立案・実施、関係部署等との連絡・調整、相談・助言、理解を深めるための啓発活動等に取り組んでいます。

明治大学は、建学の精神「権利自由・独立自治」および「明治大学ダイバーシティ&インクルージョン宣言」(2018年11月公表)に基づき、学内におけるすべての教育研究活動が、人権尊重の精神のもとに、あらゆる多様性を受容し、差別や偏見による人権侵害が生じることのないよう、学内の支援制度等の見える化も含めて明治大学のすべての構成員を対象とした啓発活動を行うことが極めて重要であるとの結論が出されました。

ないよう運営の推進を図っています。この理念に照らし合わせ、2019年12月に「多様な性に配慮した教育研究のあり方に係る基本方針」が定められました。基本方針では、すべての学生が、性のあり方にかかわらず、ありのままに自分らしく、互いに認め合い、キャンパスのあらゆる場において平等に教育研究活動の機会が得られ、尊重され、個々の能力を活かすことのできる「ダイバーシティフレンドリーキャンパス」の実現を目指すとし、次の5つの方針を示しています。

(1) 差別・偏見の禁止

多様な性のあり方を理由とする差別や偏見を許さないこと

(2) 自己決定の尊重

性のあり方に関わる情報やその開示・非開示、また、それらの表現は、当事者の意思・選択を尊重すること

(3) 個人情報の保護

性のあり方に関わる個人情報の保護を徹底すること

(4) 環境整備

性の多様な性に配慮したキャンパス環境・学習環境の整備に努めるとともに、すべての教育研究活動に関して、合理的配慮に努めること

(5) 理解促進・意識啓発

教職員及び学生の多様な性のあり方に対する理解を深めること

一方、法人のもとに設置されている明治大学男女共同参画推進センターでは、オールジェンダー、障がい、ならびに多文化共生等の視点を取り入れた、より広い視野からのダイバーシティの推進に発展させていくための体制について検討することを目的として、2018年に同センターのもとに「ダイバーシティ推進体制検討ワーキンググループ」が設置され、議論が行われました。ワーキンググループでは、学内の支援体制をしっかりと整備したうえで、多様な価値観を重視していることやあらゆる多様性を尊重していることを学内外に積極的に発信すると

もに、学内の支援制度等の見える化も含めて明治大学のすべての構成員を対象とした啓発活動を行うことが極めて重要であるとの結論が出されました。

以上のような背景から、多様な性に配慮した教育研究環境の整備等を推進するための学内拠点の整備の必要性が強く認識されるようになり、性の多様性に関する専門知識を持ったスタッフを配置した拠点(センター)を整備することになりました。

センター設置の準備を進める中で、明治大学では、「セクシュアル・マイノリティ」や「性的少数者」という用語に差別的語感があることから使用しないこととしました。また、「LGBT(※1)」という用語については、それだけでは括れない多様性があることから、「LGBT等」を用いることにしました。また、センターの名称は、多様な性を生きる人の尊厳とその社会運動を象徴する旗として知られているレインボーフラッグ(※2)にも通じ、本学の「『個』を強くする大学」という理念のもと、多様な個性の尊重を連想させる「虹」Ⅱ「レイン

※1 LGBT: Lesbian(レズビアン; 女性の同性愛者)、Gay(ゲイ; 男性の同性愛者)、Bisexual(バイセクシュアル; 両性愛者)、Transgender(トランスジェンダー; 体と心の性が一致しない人)の頭文字をとった単語。

※2 レインボーフラッグ: LGBTコミュニティのシンボルとして1976年にアメリカでデザインされ、上から「生命」を意味する赤、「癒やし」を意味する橙、「太陽」を意味する黄、「自然」を意味する緑、「調和」を意味する藍、「精神」を意味する紫の6色の旗。



絵本

の配慮・対応の手引き』(仮称)の作成を進めています。今後は、すべての学生のための同様のハンドブックの作成に着手する予定です。

センターが開設して約1年、喫緊の課題は和泉・生田・中野キャンパスへのセンターの開設です。センターでは現在、コロナ禍の特別対応として、遠隔個別相談(電話/オンライン)を行っています。が、本来は対面による相談が原則ですが、また、各キャンパスの事情を考慮した学内部署間連携や啓発活動等が必要です。

「ポ」を用いて、「レインボーサポートセンター」に決定しました。

センターは駿河台キャンパスに設置され、現在、主に取り組んでいることは、

①情報の一元化と発信、②相談・助言、③啓発活動です。

①情報の一元化と発信について、通称名使用、履修者名簿の性別欄廃止、定期健康診断受診時の配慮等の学内で既に実施している配慮、また、学籍簿の氏名・性別記載変更、体育実技の履修や更衣室利用等についての対応の現状をまとめた「性の多様性に配慮した学生生活ガイド」(仮称)を作成中で、完成次第、ホームページ等を通じて公表する予定です。このように、学内各部署で実施している配慮や対応の現状に関する情報を一元化してセンターから発信することは、具体的な配慮を求めるために学生が複数の部署を回って同じ説明を繰り返し、心理的負担を感じるような状況をつくり出さないという意味とともに、多様性の尊重と包摂性に関して、明治大学のあり方や教育研究環境についてすべての構成員が意識を共有するためのきっかけとしても極めて



センター外観

て重要なことと考えています。

②相談・助言について、性のあり方は個人の人格の重要な要素であり、すべての人に関わることで、極めて個人的でデリケートな問題のため、専門知識を持ったスタッフによる対応が不可欠であるといわれています。センターでは、性の多様性に関する専門知識を持ったス

これらのことから、通学を前提とした授業運営が行われた場合、和泉・生田・中野キャンパスにもセンターを開設することが必要になります。また、中長期的な課題として、トイレや更衣室等の施設面の対応があげられます。これらは大きな予算を必要とすることから、すぐには対応が難しい課題ですが、周囲の意識が変わることで問題が解決することもあるかもしれません。

近年、さまざまな大学において、多様な性のあり方に関するガイドラインや基本方針等の制定や組織の設置、施設面の対応が行われるようになっていますが、それぞれの大学には建学の精神や教育理念、組織風土・文化があり、多様な性に配慮した教育研究環境の整備等についても、さまざまな視座、視点、価値観を持つていると思います。したがって、この課題にどのように取り組むかについては、それぞれの大学の事情や状況を踏まえて最適解を導き出すことが大切であると考えています。性の多様性のみならず、あらゆる多様性を尊重し、「誰一人取り残さない」というSDGsの基本理念に則

スタッフ1名を配置し、本学の学生からの相談に応じるとともに、学生の家族や学内教職員へのコンサルテーション(※3)も行っています。今後は多様な性のあり方に関する専門性の高い相談窓口の機能を持ったセンターとして、心の悩み相談をはじめ、学生のキャンパスの中での困りごとや不便に感じていることなどを集約し、多様性に配慮した教育研究環境整備のための施策にフィードバックしていきます。また、学内教職員へのコンサルテーションから学内部署間で連携して対応する必要が生じた場合は、その連絡・調整の役割も担っていきます。

③啓発活動について、コロナ禍の現在、対面でのワークショップや講演会等の実施が難しい状況であることから、情報共有の場としてオンライン茶話会等を計画しています。一方、情報提供を通じた理解促進の取り組みとして、日常的に学生と接する立場にある教職員に多様な性のあり方についての理解と学生への配慮・対応に関する知識を深めてもらうために、「教職員のための『多様な性に配慮した教育研究等のあり方ハンドブック』学生へ



本棚

り、高等教育機関の社会的使命として、誰一人取り残さない大学をどう実現するか、「少数派も多数派もあるのが当たり前」の社会(キャンパス)の実現に向けて、明治大学らしい取り組みを進めていくことが必要と考えています。また、多くの学生が多様性と包摂性の重要性を認識し、学生目線で啓発活動等に関わってくれることを期待しています。

(文中の情報は2021年3月時点のものです。)

※3 コンサルテーション:複数の者が援助対象である問題状況について検討し、よりよい援助のあり方について話し合うプロセス。